

日本人に染み込む「集団腐敗体質」

——「日本人」とはどう定義され、どんな特徴を持つ民族ですか。

新谷 日本人というのは地理的、歴史的、主観的概念が複合的に組み合わさり定義されるもので一概には言えない。ただ、「稲作を基盤とした国民」という特徴がある。紀元前から始まった稲作が、長い時間をかけて三世紀ごろには古墳国家が成立した。米は美味く、米から造る酒も魅力的だった。稲作は狩猟と異なり、総合的な経営をしなければならぬ。そのため、「集団的な行動が第一」という考えが日本人に刷りこまれた。組織の中で目立たず

に我慢すれば、益や正月、収穫後に楽しい思いができる。そういう考え方を社会の基本にしてきた。そして、長かった武家社会の時代に、統治機構に組み込まれることを是とする意識も根づいた。

——現在の日本は様々な問題に直面していますが、多くの日本人はそんなに騒ぎません。

新谷 感覚的な言い方になるが日本

人には危機感がない。そして、現在の政治家に問題があっても、対案を出して前に進むのではなく、なんとなく「ノー」と言っているだけ。マスコミも含めて問題だと思いが、日本人にはこういう集団腐敗体質がある。そして誰も

Interview

しんたにたかのり
新谷尚紀
(国立歴史民俗博物館名誉教授)

1948年広島生まれ。71年早稲田大学第一文学部史学科卒業、98年に慶應義塾大学で博士号取得(社会学)。国立歴史民俗博物館、国立総合研究大学院大学、國學院大学文学部及び大学院などで教授を歴任。著書に「神社とは何か」など多数。



ら、いろいろなレッテルを貼って社会から排除してきた。

——無責任な日本人の社会で生じる弊害はなんでしょう。

新谷 責任を問うというのは、原因を追究するという事に繋がる。日本では国や企業の不祥事でさえも原因をきちんと明らかにしない。そして、上

ば変えられますか。

新谷 たとえば、「創業者」を畏敬する意識を植えつける教育はどうだろう。東京電力であれ日本銀行であれ、創業という一大事業は、適当に付和雷同している人間には成し遂げられない。そういうことを教育の場で伝えていくべきだ。日本の教育は、みんな横並びで学校の先生の言うことを聞く子が良い子というもの。これでは創業したり、発明をしようという意識は育たない。当然、世界的起業家が続々と出てくる米国のようにはなれないだろう。

——七月には参院選がありました。選挙で社会は変わりませんか。

新谷 自立心も自覚もない日本人は「しょうがないよね」で終わってしまふ。権力者のほうも「よくやっている」という風に見えるのは得意。結果として、選挙なんて機能していかないのではなか。大切な選挙権を与えても、権利を持っている人に自覚がなければ意味がない。良い選挙民を育てるのが教育の基本だが、それを怠ってきた結果として無自覚な投票民だらけになった。これで社会が変わるはずがない。

責任をとらない。先の大戦では敗北した後「一億総懺悔」とやった。広島での原爆慰霊碑には「過ちは繰返しませぬ」と書いてあるが誰の過ちなのかわからない。「組織の中の役割分担でやっていただけだから」と、誰が悪いのかを特定させない。責任を追及しないし、させない社会システムが完成している。仮に他人の責任を追及する人間がいた